http://www.wakayama-masui.jp/

和歌山県立医科大学附属病院
麻酔科専門研修プログラム 2026

和歌山県立医科大学
麻酔科学教室
The Department of Anesthesiology Wakayama Medical University

【電話】073-441-0611
〒641-8509　和歌山市紀三井寺811番地1

和歌山県立医科大学附属病院 麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院（和歌山県）、専門研修連携施設である日本赤十字社和歌山医療センター（和歌山県）、和歌山労災病院（和歌山県）、公立那賀病院（和歌山県）、ひだか病院（和歌山県）、橋本市民病院（和歌山県）、新宮市立医療センター（和歌山県）、紀南病院（和歌山県）、南和歌山医療センター（和歌山県）、和歌山県立医科大学附属病院紀北分院（和歌山県）、国立成育医療センター（東京都）、信州大学医学部附属病院（長野県）、熊本大学医学部附属病院（熊本県）、関西医科大学附属病院（大阪府）、関西医科大学総合医療センター（大阪府）、大阪医科薬科大学病院（大阪府）、大阪公立大学医学部附属病院（大阪府）、大阪大学医学部附属病院（大阪府）において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到

達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識と技術、態度を備えた麻酔科専門医を育成する。
麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6か月は専門研修基幹施設で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーション（後述のローテーション例A）を基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（例B)、ペインクリニックや緩和医療を学びたい者へのローテーション（例C)、心臓血管麻酔を中心に学びたい者へのローテーション（例D)、集中治療を学びたい者のローテーション（例E）など専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションの組み合わせも考慮する。
- 地域医療の維持のため、最低でも3ヶ月以上は和歌山県内の専門研修連携施設での研修を行う。
- 信州大学医学部附属病院・熊本大学医学部附属病院・関西医科大学附属病院・関西医科大学総合医療センター・大阪医科薬科大学病院・大阪公立大学医学部附属病院・大阪大学医学部附属病院・成育医療研究センターと、プログラムを相互連携しており、地域医療にとどまらず国内幅広い麻酔科研修を行う。
- 毎朝、麻酔科管理症例の術前検討会を行い、週に1回の頻度で論文の抄読会もしくは麻酔科関連領域に関するレビューカンファレンスを開催し、学術集会前には発表の予演会が行われる。また、専攻医対象の勉強会やセミナーを2週間に1回行っている。また、外部講師を招いての講演会・ハンズオンセミナーなどの企画を盛り込んだ“和歌山麻酔塾”を定期的に開催している。

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	C(ペイン・緩和)	D（心臓血管）	E（集中治療）
初年度前期	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大
初年度後期	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大
２年度前期	和歌山医大	和歌山医大	連携施設	和歌山医大	連携施設
２年度後期	連携施設	連携施設	連携施設	和歌山医大	連携施設
３年度前期	連携施設	連携施設	和歌山医大	連携施設	和歌山医大
３年度後期	連携施設	和歌山医大	和歌山医大（ペイン）	連携施設	和歌山医大
４年度前期	連携施設	成育医療センター（小児）	和歌山医大（緩和）	和歌山医大（心臓血管）	和歌山医大（集中治療）
４年度後期	和歌山医大（ペイン）	和歌山医大（小児心臓）	和歌山医大（緩和）	和歌山医大（心臓血管）	和歌山医大（集中治療）

週間予定表

和歌山県立医科大学附属病院麻酔科ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	連携病院	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	連携病院	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直	待機				当直		

心臓血管外科・小児科との合同カンファレンス（小児循環器カンファレンス)、周産期チームとの合同カンファレンスがそれぞれ毎週開催されている。 土曜日には研究会・勉強会・ハンズオンセミナーを催すこともある。

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

和歌山県立医科大学附属病院

研修プログラム統括責任者：川股 知之

専門研修指導医：川股 知之 （麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
時永 泰行 （麻酔）
神田 浩嗣 （麻酔）
栗山 俊之 （麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
藤井 啓介 （麻酔、区域麻酔、心臓血管外科麻酔）
山﨑 亮典 （麻酔、区域麻酔）
槙野 仁奈 （麻酔）
平井 亜葵 （麻酔）
黒崎 弘倫 （麻酔）
吉田 朱里 （麻酔、小児麻酔、心臓血管外科麻酔）
神田 佳典 （麻酔）
丸山 智之 （麻酔、ペインクリニック）
山﨑 景子 （麻酔、集中治療）

専門医：関 尭文 （麻酔）

麻酔科認定施設番号：40

特徴： ペインクリニック、緩和ケア、集中治療のローテーション可能

ロボット支援手術・経カテーテル大動脈弁留置術・低侵襲心臓手術など先進的手術症例、小児心臓外科手術、高度救命救急センターならではの救急手術症例など多くの手術症例を経験できる。また、無痛分娩、エコーガイド下・透視下ブロックを駆使したペインクリニック研修、緩和ケア病棟・緩和チームでの研修、集中治療の研修といったフレキシブルな研修ができる。

2024年度 麻酔科管理症例数 6,128症例

小児（6歳未満）の麻酔	244 症例
帝王切開術の麻酔	141 症例
心臓血管手術の麻酔	394 症例
胸部外科手術の麻酔	280 症例
脳神経外科手術の麻酔	187 症例

② 専門研修連携施設 A

1. 日本赤十字社和歌山医療センター

研修統括責任者：丹下 和晃

専門研修指導医：丹下 和晃（麻酔、区域麻酔）
伊良波 浩（麻酔）
山田 伸（麻酔、漢方医学）
川口吉昭（麻酔）
岩橋 静江（麻酔）
吉村 聖子（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
根来 孝明（麻酔、心臓血管外科麻酔）
池本 進一郎（麻酔、ペインクリニック）
佐田 蓉子（麻酔、心臓血管外科麻酔）

専門医：宮崎 里紗（麻酔、ペインクリニック）
大森 由佳（麻酔、産科麻酔）

麻酔科認定病院番号 200

特徴：当院は和歌山県のみならず近隣府県のからも症例が集まり、麻酔科管理手術症例は年間 6000 例を超える。ペインクリニック、漢方医学、集中治療、緩和医療、心臓血管外科麻酔が研修可能である。集中治療は ICU 専属医師のもとに研修を行う。各指導医は区域麻酔、小児麻酔などの経験・技能も豊富である。ペイン、漢方、心臓麻酔はそれぞれの専門医に指導を受けることができる。当院では麻酔計画の段階である術前診察に重点を置き、安全性を高めるとともに患者との信頼関係を構築している。病院治療を行う患者を総合的に管理・支援する患者サポートセンターでの術前診察にはじまり、手術室の麻酔科医リーダー、手術部看護師のフロアリーダーのチェックを経て、看護師・薬剤師も参加する術前カンファレンスを行い、手術スタッフ内で情報の共有化を図っている。2024 年からはロボット支援手術室が 2 室稼働している。術後疼痛管理チーム、無痛分娩の導入も開始された。

2024年度　麻酔科管理症例数 6,609症例

小児（6歳未満）の麻酔	164 症例
帝王切開術の麻酔	191 症例

心臓血管手術の麻酔	219 症例
胸部外科手術の麻酔	324 症例
脳神経外科手術の麻酔	75 症例

2. 独立行政法人 労働健康福祉機構 和歌山労災病院

研修実施責任者：小川 幸志

専門研修指導医：小川 幸志 （麻酔）

田島 照子 （麻酔）

樋口 美沙子（麻酔）

北山 麻祐子（麻酔）

奥田 菜穂子（麻酔）

麻酔科認定施設番号：716

特徴：地域医療支援病院、災害拠点病院

2024年度 麻酔科管理症例数 2,006症例

小児（6歳未満）の麻酔	24 症例
帝王切開術の麻酔	31 症例
心臓血管手術の麻酔	0 症例
胸部外科手術の麻酔	2 症例
脳神経外科手術の麻酔	129 症例

3. 橋本市民病院

研修実施責任者：箕西 利之 （麻酔）

専門研修指導医：箕西 利之 （麻酔）

西浦 徳裕 （麻酔）

専門医：吉田 悠 （麻酔）

麻酔科認定施設番号：1547

特徴：災害拠点病院

2024年度 麻酔科管理症例数 1,029症例

小児（6歳未満）の麻酔	1 症例
帝王切開術の麻酔	7 症例
心臓血管手術の麻酔	0 症例
胸部外科手術の麻酔	11 症例
脳神経外科手術の麻酔	6 症例

4. 公立那賀病院

研修実施責任者：上松 伸彦

専門研修指導医：上松 伸彦（麻酔、心臓血管外科麻酔）

大岡 卓司（麻酔）

麻酔科認定施設番号：1121

特徴：災害拠点病院

2024年度 麻酔科管理症例数 918症例

小児（6歳未満）の麻酔	1 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔	0 症例
胸部外科手術の麻酔	47 症例
脳神経外科手術の麻酔	50 症例

5. ひだか病院

研修実施責任者：羽場　政法

専門研修指導医：羽場　政法　（麻酔）

麻酔科認定施設番号：1544

特徴：災害拠点病院

2024年度 麻酔科管理症例数 581症例

小児（6歳未満）の麻酔	2 症例
帝王切開術の麻酔	32 症例
心臓血管手術の麻酔	0 症例

胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	2 症例

6. 新宮市立医療センター

研修実施責任者：森下 健康

専門研修指導医：森下 健康　（麻酔）

専門医：山本 香寿美（麻酔）

麻酔科認定施設番号：1569

特徴：地域医療支援病院

2024年度 麻酔科管理症例数 1,048症例

小児（6歳未満）の麻酔	1 症例
帝王切開術の麻酔	21 症例
心臓血管手術の麻酔	3 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	23 症例

7. 独立行政法人国立病院機構　南和歌山医療センター

研修実施責任者：平野 勇生

専門研修指導医：平野 勇生　（麻酔）

麻酔科認定施設番号：715

特徴：三次救急医療機関、地域医療支援病院、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、臨床研修指定病院、日本緩和医療学会認定研修施設

2024年度 麻酔科管理症例数 971症例

小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔	0 症例
胸部外科手術の麻酔	100 症例
脳神経外科手術の麻酔	104 症例

8. 紀南病院

研修実施責任者：角谷 哲也

専門研修指導医：角谷 哲也　（麻酔）

道幸 由香里（麻酔）

麻酔科認定施設番号：1344

特徴：地域がん診療連携拠点病院 地域周産期母子医療センター 臨床研修指定病院 災害拠点病院 第二種感染症指定病院 へき地医療拠点病院 救急告示病院 2024 年度麻酔科管理症例数 1,638 症例

小児（6歳未満）の麻酔	17 症例
帝王切開術の麻酔	60 症例
心臓血管手術の麻酔	124 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

9. 信州大学医学部附属病院

研修実施責任者：田中　聡

専門研修指導医：田中　聡（麻酔、ペインクリニック）

間宮　敬子（緩和医療、ペインクリニック）

石田　高志（麻酔）

石田　公美子（麻酔）

伊藤　真理子（麻酔）

渡邉　奈津子（麻酔）

丸山　友紀（麻酔、心臓血管外科麻酔）

新井　成明（麻酔、心臓血管外科麻酔）

田中　竜介（麻酔）

専門医：蜜澤　邦洋（麻酔）

田中　成明（麻酔、緩和）

飯田　圭輔（麻酔）

竹腰　正輝（麻酔、心臓血管外科麻酔）

嶋尾　拓海（麻酔）

大場　衣梨子（麻酔）

後藤　咲耶子（麻酔）

山田　利恵子（麻酔）

小川　麻理恵（麻酔）

松崎　敦子（麻酔）

麻酔科認定施設番号：31

特徴：集中治療、ペインクリニック、緩和医療のローテーション可能。覚醒下開頭手術の麻酔、肝移植の麻酔などを修練可能。胸部大血管手術における神経機能モニタリングなどを行っている。

麻酔科管理症例数 6,233 症例

小児（6歳未満）の麻酔	116 症例
帝王切開術の麻酔	206 症例
心臓血管手術の麻酔	469 症例
胸部外科手術の麻酔	304 症例
脳神経外科手術の麻酔	191 症例

10. 熊本大学病院

研修実施責任者：平田　直之

専門研修指導医：平田　直之（麻酔、集中治療）

杉田　道子（麻酔）

生田　義浩（麻酔）

鷺島　克之（麻酔、集中治療）

丸田　豊明（麻酔、集中治療）

江嶋　正志（麻酔、集中治療）

小松　修治（麻酔、ペインクリニック）

山田　寿彦（麻酔、ペインクリニック）

藤本　昌史（麻酔）

荒木　美貴（麻酔）

石村　達拡（麻酔）

徳永　祐希子（麻酔）

林田　裕美（麻酔）

林　正清（麻酔）

柚瑠木　朋子（麻酔）

原　万里恵（麻酔）

専門医：宮川　直子（麻酔）

冨田　香（麻酔、集中治療）

中村　真吾（麻酔）

田島　功一朗（麻酔）

石原　旭（麻酔、集中治療）

飽田　久扇子（麻酔）

丸山　桜子（麻酔）

大石　将之（麻酔）

是松　伸之介（麻酔）

麻酔科認定病院番号：34

特徴：　大学病院としての多くの麻酔科管理症例を経験でき、必須である小児、帝王切開、心臓外科、胸部外科、脳外科の症例数が豊富である。手術室麻酔以外にも集中治療、ペインクリニック、緩和ケアをローテーション可能である。産科麻酔講座があるため無痛分娩の管理や、区域麻酔としてのエコーガイド下テクニック、ペインクリニック領域での透視下ブロックなどの手技も学ぶことができる。

麻酔科管理症例数 5,968 症例

小児（6歳未満）の麻酔	137 症例
帝王切開術の麻酔	166 症例
心臓血管手術の麻酔	362 症例
胸部外科手術の麻酔	419 症例
脳神経外科手術の麻酔	266 症例

11. 大阪医科薬科大学病院

研修実施責任者：日下裕介

専門研修指導医：南　敏明（麻酔，ペインクリニック）
梅垣　修（集中治療）
日下　裕介（心臓血管麻酔，集中治療）
間嶋　望（小児麻酔）
門野　紀子（集中治療）
下山　雄一郎（集中治療）
中野　祥子（小児麻酔）
藤原　淳（心臓血管麻酔）
上野　健史（小児麻酔）
長峯　達成（心臓血管麻酔）
佐野　博昭（ペインクリニック）
北埜　学（小児麻酔）
藤澤　貴信（心臓血管麻酔）
山崎　紘幸（集中治療）
野田　祐一（集中治療）
富畑　翔（集中治療）
鳥井　理那（ペインクリニック）
徳永　友里（ペインクリニック）
牧澤　佑樹（心臓血管麻酔）
三井　寛明（心臓血管麻酔）
三島　洋輝（ペインクリニック）
荒木　悠里（ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：19

特徴：2016 年 3 月より、新中央手術棟 (手術室 20 室、集中治療室 16 床) が新設され、麻酔科医局は手術室・集中治療室に隣接しています。当院では、2024 年度、全手術件数 12,187 件、全身麻酔症例 6,574 件の実績があります。豊富な麻酔症例を経験でき専門医必要症例を全てバランスよく研修することが可能であり、さらに集中治療・ペインクリニックの研修も可能です。また、種々のセミナー (麻酔科学関連だけではなく、学会発表のための Power Point の使い方、統計など) の開催、専門医試験対策、学会発表・論文作成の指導、将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています。

ペインクリニック外来は、1966 年、故兵頭正義教授が日本においては東京大学に次いで 2 番目に開設され、伝統があります。

麻酔科管理症例数 7,216 症例

小児（6歳未満）の麻酔	212 症例
帝王切開術の麻酔	209 症例
心臓血管手術の麻酔	361 症例
胸部外科手術の麻酔	387 症例
脳神経外科手術の麻酔	307 症例

12. 関西医科大学附属病院

研修実施責任者：上林　卓彦

専門研修指導医：上林　卓彦（麻酔）

萩平　哲（麻酔，呼吸器外科麻酔）

中本　達夫

（麻酔，ペインクリニック，区域麻酔，神経ブロック）

梅垣　岳志（麻酔，集中治療）

岩﨑　光生（麻酔）

伊藤　明日香（麻酔，心臓血管麻酔）

野々村　智子（麻酔）

旭爪　章統（麻酔，ペインクリニック）

金沢　路子（麻酔，産科麻酔）

添田　岳宏（麻酔，集中治療）

穴田　夏樹（麻酔）

西本　浩太（麻酔）

相原　聡（麻酔）

米田　寛子（麻酔）

内田　整（麻酔，小児麻酔）

専門医：橋本　千香子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1234

特徴 : 麻酔の各種分野（呼吸器外科麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）のエキスパートが揃っており、多数・多彩な疾患・手術患者に対する科学的全身管理が研修可能である。

また、総合集中治療部では麻酔科を中心に closed system で集中治療診療を行っており、内科系・外科系を問わず重症患者の全身管理が研修できます。

麻酔科管理症例数 8,210 症例

小児（6歳未満）の麻酔	496 症例
帝王切開術の麻酔	373 症例
心臓血管手術の麻酔	430 症例
胸部外科手術の麻酔	651 症例
脳神経外科手術の麻酔	338 症例

13. 大阪公立大学医学部附属病院

研修実施責任者：森　隆

専門研修指導医：森　隆(麻酔)

松浦　正(麻酔)

末廣　浩一(麻酔，心臓血管外科麻酔、集中治療)

矢部　充英(麻酔，ペインクリニック)

舟井　優介(麻酔，小児麻酔，心臓血管外科麻酔)

堀　耕太郎(麻酔，心臓血管外科麻酔)

藤本　陽平(麻酔)

日野　秀樹(麻酔，小児麻酔，心臓血管外科麻酔)

辻川　翔吾(麻酔，ペインクリニック)

重里　尚(麻酔，心臓血管外科麻酔，集中治療)

木村　文（麻酔）

渡邉　亮太（麻酔，小児麻酔，心臓血管外科麻酔）

麻酔科認定病院番号：11

特徴 : 機構専門医研修に必要な全症例を当施設で経験可能です。また、大学院博士課程並びにペインクリニックを併設しておりますので、博士号取得並びにペインクリニック認定医取得と機構専門医取得を両立できます。

麻酔科管理症例数 6,580 症例

小児（6歳未満）の麻酔	127 症例
帝王切開術の麻酔	266 症例
心臓血管手術の麻酔	355 症例
胸部外科手術の麻酔	415 症例
脳神経外科手術の麻酔	355 症例

14. 大阪大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：吉田　健史

専門研修指導医：吉田　健史　（麻酔・集中治療）
高階　雅紀　（麻酔）
松田　陽一　（麻酔・ペインクリニック）
入嵩西　毅　（麻酔・心臓血管麻酔・区域麻酔）
井口　直也　（麻酔・集中治療）
高橋　亜矢子　（麻酔・ペインクリニック）
平松　大典　（麻酔）
井浦　晃　（麻酔）
山本　俊介　（麻酔・心臓血管麻酔・区域麻酔）
前田　晃彦　（麻酔・心臓血管麻酔・区域麻酔）
松本　悠　（麻酔・小児麻酔・神経麻酔）
妙中　浩紀　（麻酔・集中治療）
弓場　智雄　（麻酔･心臓血管麻酔･小児麻酔･産科麻酔）
黒田　真理子　（産科麻酔）
池村　彩華　（麻酔）
岡田　康佑　（麻酔・心臓麻酔）
徳平　夏子　（集中治療）
小山　有紀子　（麻酔・集中治療）
松本　充弘　（麻酔・集中治療）
山下　智範　（集中治療）
榎谷　祐亮　（集中治療）

橋本　明佳　　（集中治療）
岩田　博文　　（集中治療）
専門医：氏本　大介　　（麻酔・小児麻酔・産科麻酔）
堀池　博吏　　（麻酔・ペインクリニック）
駒田　暢　　（集中治療）
前澤　貴　　（集中治療）
堺　奈生美　　（麻酔・集中治療）

麻酔科認定病院番号：49

特徴：

- あらゆる診療科があり、基本的な手術から脳死移植を含む複雑な手術、ASA１～６の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。
- ２年間の在籍で経験必要症例の規定数の達成が可能である。
- 最新の手術に対応した最先端の麻酔や無痛分娩を含む産科麻酔についても経験することが可能である。
- 手術麻酔、集中治療、ペインクリニック等の麻酔に関連するあらゆる分野を経験することが可能である。

麻酔科管理症例数 7,464 症例

小児（6歳未満）の麻酔	393 症例
帝王切開術の麻酔	178 症例
心臓血管手術の麻酔	644 症例
胸部外科手術の麻酔	472 症例
脳神経外科手術の麻酔	246 症例

③ 専門研修連携施設 B

1. 国立成育医療研究センター

研修実施責任者：糟谷　周吾
専門研修指導医：糟谷　周吾
大原　玲子
馬場　千晶
佐藤　正規

蜷川　純
山下　陽子
行正　翔
古田　真知子
浦中　誠
橋谷　舞
伊集院　亜梨紗
阿部　まり子
兒玉　洋介
久米　澄子

麻酔科認定病院番号：87

特徴：

- 国内最大の小児・周産期・産科・母性医療の専門施設で、小児（手術・検査等）・周産期の麻酔管理（帝王切開・無痛分娩・EXIT 等）について、指導者の下で経験・習得できる。
- 国内最大の小児集中治療施設で、救急・重症疾患の集中治療管理を経験・習得できる。
- 小児の移植（肝臓・腎臓・小腸・心臓）の周術期管理を経験できる。
- 先天性心疾患を有する麻酔管理（手術・カテーテル検査）を経験できる。
- 小児がんセンター、緩和ケア科があり、小児緩和医療を経験できる。
- 臨床研究センターによる臨床研究サポート体制がある。

麻酔科管理症例数 6,653 症例

小児（6歳未満）の麻酔	2,370 症例
帝王切開術の麻酔	789 症例
心臓血管手術の麻酔	130 症例
胸部外科手術の麻酔	38 症例
脳神経外科手術の麻酔	159 症例

2. 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院

研修実施責任者：栗山 亘代

専門研修指導医：栗山 亘代　（麻酔）

麻酔科認定施設番号：1967

特徴：第二種感染症指定医療機関

脊椎センター・認知症疾患医療センターを設置しており、脊椎外科手術、高齢者手術の周術期管理を習得できる。

麻酔科管理症例数 343 症例

小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

3. 関西医科大学総合医療センター

研修実施責任者：増澤　宗洋

専門研修指導医：増澤　宗洋（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

阪本　幸世（麻酔）

吉田　敬之（麻酔）

宇野　梨恵子（麻酔）

緒方　洪輔（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

専門医：大平　早也佳（麻酔）

湊　綾那　（麻酔,ペインクリニック,緩和ケア）

村上　瑛亮　（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

麻酔科認定病院番号：30

特徴:関西医科大学総合医療センターにおける教育の根本は麻酔科の総合医を作ることである。心臓超音波診断や末梢神経ブロックは全国でも有数な技術を持った麻酔科医が在籍している。脳死臓器移植もこれまで 10 例行った。ペインクリニックや緩和医療も行っており、集中治療を加えた 3 本柱がすべてそろった施設である。

麻酔科管理症例数 2,745 症例

小児（6歳未満）の麻酔	17 症例
帝王切開術の麻酔	30 症例

心臓血管手術の麻酔	43 症例
胸部外科手術の麻酔	83 症例
脳神経外科手術の麻酔	46 症例

4. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2025年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

郵便番号 641-8509 和歌山県和歌山市紀三井寺 811-1
TEL 073-441-0611　FAX 073-448-1032（麻酔科学教室）
担当者：和歌山県立医科大学麻酔科学教室 栗山俊之
e-mail：kuriyama@wakayama-med.ac.jp

5. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

１）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
３）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

6. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

7. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1 ～ 2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1 ～ 2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

8. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡さ

れる。

- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修４年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

9. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

10. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

11. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認め

る。

12. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院として日本赤十字和歌山医療センター、和歌山労災病院、南和歌山医療センター、紀南病院、橋本市民病院、公立那賀病院、新宮市立医療センターなど幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

13. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。